

3年2組 国語科学習指導案

授業日 平成26年6月23日(月) 5校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 里村 穰
会場 3年2組教室

1 単元名 「必要な情報を考えながら読もう」 教材名 「くらしと絵文字」(教育出版3下)

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の(2)内容①指導事項(1)エを受けて設定する。

(2)内容 ①指導事項

(1)読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

「読むこと」において、「自分の考えの形成及び交流」に関する指導事項が新設された。上記指導事項の解説では、「自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、引用や要約をすることを示している」とある。これは、「自分の考えをまとめる」目的をもって読み、自分に必要な情報を思考判断し、この情報を「引用や要約する」技能が、自分の考えを形成するための読みとして、これからの時代に求められている「読むこと」の資質・能力であると捉える。

本来、人間は、「何かを知りたい」と考えて、文章を読む。「～したい」という目的や必要感があるからこそ、能動的に文章を読み、書かれていることから自分に必要な情報を得る。3年生の子どもが文章を読む際も、「自分の考えをまとめるために読む」という読む目的をもたせ、自分に必要な情報を取捨選択させたい。そして、自分に必要だと判断した情報を取り入れて自分の考えをまとめさせ、引用や要約の技能を身に付けさせたい。

そこで、本単元では、教材文を読む前に、学習課題を提示し、教材文で取り上げている話題に対する初発の自分の考えをもたせる。そして、「話題のことをもっと知るために」という読む目的をもたせる。この目的をもたせた上で、教材文を読ませる。文章の読み方は、文章内容の大体をつかむ素読と、自分に必要な部分を拾い読みする摘読とである。こうすることで、子どもは、文章全体から自分に必要な情報がありそうな部分を見当をつける。そして、その部分から自分に必要な情報を得ようと読む。子どもは、書かれている複数の情報を、初発の自分の考えを視点として比較し、初発の自分の考えを補完する情報を取捨選択して取り出す。自分に必要な情報を取り出した子どもに、再度学習課題を提示して考えの変容を問うことで、子どもは、初発の自分の考えと自分に必要な情報とを関係付けて取り入れ、自分の考えをまとめる。

本単元で扱う教材文「くらしと絵文字」で取り上げている話題は、「くらしの中で多くの絵文字が使われているのはなぜか」である。文章の構成は、次のようになっている。

序論では、「絵文字の定義・昔から使われていること・現在でも多くの絵文字が使われていること」が、具体例を挙げながら説明されている。そして、「たくさんの絵文字が使われているのはなぜでしょうか。絵文字の特長から考えてみましょう」という話題提示の文章がある。

本論では、「第一の特長(絵を見た瞬間にその意味が分かる)・第二の特長(伝える相手に親しみや楽しさを感じさせる)・第三の特長(その意味が言葉や年齢などの違いをこえて分かる)」を、具体的な絵文字を例に挙げながら説明している。

結論では、外国との交流という観点を示し、「絵文字が様々な場面で大切な役割を果たすこと・くらしを便利で楽しく、安全にしてくれること・世界中の人々がもっと分かり合い、つながりを深め合うのにも役立つこと」が述べられている。

子どもは、生活の中で、たくさんの絵文字に囲まれている。そのため、絵文字に関する既存の経験や知識を想起して根拠とし、「なぜたくさんの絵文字が使われているのか」という話題に対する初発の考えをもちやすい。また、教材文には、絵文字の特長として複数の情報があるため、自分に必要な情報がどれかを考えながら読むことができる。

子どもに身近な話題を取り上げ、その話題について複数の情報が書かれている教材文を用いることで、自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れ、自分の考えをまとめることができる。これが、本単元の価値である。

3 本単元で学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力

本単元で、学びをつなぐ力を高めた姿は、**自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れる子ども**である。具体的には、教材文「くらしと絵文字」を読む前にもった話題（なぜたくさんの絵文字が使われているのか）に対する初発の自分の考え（「分かりやすい」「便利だ」等の絵文字が多く使われている理由）と、教材文に書かれている複数の情報の中から取捨選択して得た自分に必要な情報とを、自分の考えを補完するという目的で関係付けて、話題に対する自分の考えをまとめている子どもである。

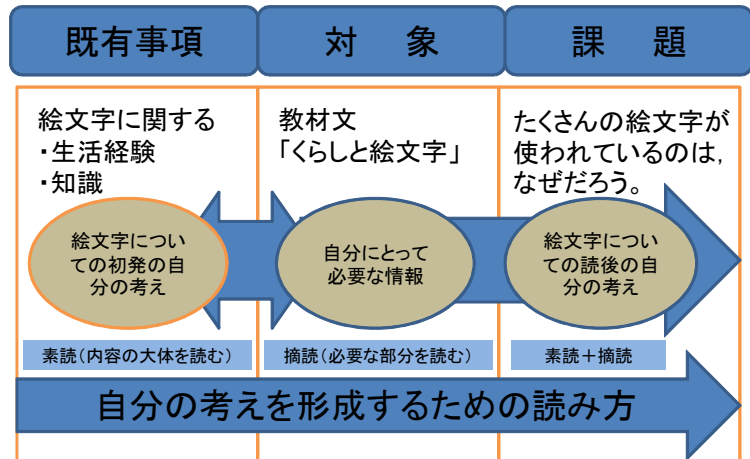
目指す子どもとなるために、まず、「自分の考えをまとめるため」という読む目的を子どもにもたせる。この目的をもたせるために、話題に対する初発の自分の考えをもたせ、「話題についてもっと知るために読みたい」という状態にさせる。この状態が、読む目的をもった姿である。

次に、教材文を提示して読ませ（素読）、段落ごとに内容をまとめさせる。子どもは、文章内容の大体をつかみ、自分に必要な情報がどの部分にありそうか見当をつける。見当をつけて読む（摘読）ことで、子どもは、読む目的に沿って、自分にとって必要な情報を得ることができる。この

とき、子どもは、**比較するすべと関係付けるすべ**を用いて、教材文を読んでいる。初発の自分の考えを視点にして、教材文に書かれている複数の情報を比較して取捨選択し、初発の自分の考えを補完するという目的で、初発の自分の考えと自分に必要だと判断した情報とをつなぐ。これが、本単元での学びをつなぐ力である。

最後に、自分に必要な情報を判断した子どもに、話題に対する自分の考えを再度問う。子どもは、自分に必要だと判断した情報を引用して、話題に対する自分の考えをまとめる。この姿が、学びをつなぐ力を高めた姿であり、**自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れる子ども**である。

学びをつなぐ力を高める授業



4 指導計画

単元カード参照

5 指導の構想

単元における言語活動を「なぜなぜ？絵文字～絵文字のひみつを考えよう～」とし、絵文字が多く使われている理由を考え、その考えを書いたり話したりして表出する形式として設定する。言語活動は、子どもが問いをもった状態になった際に提示することとし、以下のように働き掛ける

働き掛け1

話題に対する初発の考えをもたせた上で、教材文の題名「くらしと絵文字」を提示する。

子どもに「もっと絵文字が多く使われている理由を知るために文章を読みたい」という問いをもたせる働き掛けである。単元の導入時、教材文「くらしと絵文字」と出会う前に、絵文字が表されている複数の視覚的資料を「これは何でしょう」と、クイズ形式で複数提示する。子どもは、提示された資料を見て、「信号機に付いているマークだ」「トイレのマークだ」等の反応を示す。複数の資料を提示した後に、資料の共通点を問う。子どもは、「どれも絵がかいてある」「どれも何かを表すマーク」などと発言する。「絵文字」という言葉が発言されない場合は、子どもの発言をまとめ、これらを「絵文字」ということを伝える。

その後、「これまでに、このような絵文字を見たことがあるか」と問うことで、子どもは、絵文字に関する既有の経験や知識を想起し、見たことのある絵文字や知っている絵文字を次々と挙げる。多くの絵文字が挙げられたところで、「みんなの周りでこれだ

けのたくさんの絵文字が使われているのは、なぜだろう」と学習課題を提示する。子どもは、想起した絵文字に関する既存の経験や知識を根拠に、絵文字が多く使われている理由を考える。子どもは、「見てすぐ分かるから」「便利だから」等の考えをもつ。この考えを、話題に対する初発の自分の考えとし、ワークシートに書かせる。

子どもは、導入時の「絵文字クイズ」から「なぜ多くの絵文字が使われているのか」に関する既存の経験や知識を想起し、多くの絵文字が使われている理由を考えている。しかし、初発の自分の考えは、既存の経験や知識を根拠にした推論であり、絵文字が多く使われている理由が、自分の考えた理由でいいのか、自分の考えに十分に自信をもてていない状態である。

この子どもに、教材文の題名「くらしと絵文字」のみを提示する。絵文字に関する文章があることを知った子どもは、「文章を読んで、もっと絵文字が多く使われている理由を知りたい」という状態になる。この状態を問いをもった姿と見なす。また、この姿は、自分に必要な情報を取り入れるためにという読む目的をもった姿でもある。この段階で、単元における言語活動「なぜなぜ？絵文字～絵文字のひみつを考えよう～」を提示する。

問いをもった状態の子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 2

教材文全文を提示し、段落の内容をまとめさせる。

自分に必要な情報が文章全体のどの部分にありそうかという見当をつけさせる働き掛けである。「絵文字が多く使われている理由を知るために読みたい」という意識の子どもに、教材文全文を提示する。まず、教材文全文を拡大したものを掲示し、教材文全文を印刷したプリントを配る。子どもは、「この文章にはどのようなことが書かれているのだろう」と、教材文全文を読む。これが、文章内容の大体をつかもうとする素読である。素読が終わった段階で、子どもに段落の内容をまとめる枠を印刷したワークシートを配付し、形式段落の内容をまとめさせる。子どもは、内容のまとまりとして段落があること、「はじめ・なか・おわり」の文章構成を学習している。この子どもに、「段落の内容をまとめよう」と指示する。子どもは、文章内容の大体をつかみ、初発の自分の考えから設定した「話題の〇〇について」という視点で、**比較するすべ**を用いて、複数の形式段落の内容を比べ、自分の得たい情報がどの段落に書かれているのかの見当をつけ始める。「この部分を読むことで、絵文字が多く使われている理由についての自分の得たい情報が得られそうだと意識している状態である。

自分の得たい情報がこの部分にありそうだと見当をつけている子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 3

見当をつけた部分から得られる情報は何かを問う。

教材文の見当をつけた部分から、自分に必要な情報を取捨選択させる働き掛けである。まず、「あなたは、どこを詳しく読もうと考えていますか」と問い、摘読を促す。これから読もうとする部分を意識している子どもに、「その部分から得られる情報は何か」と問う。すると、子どもは、選んだ部分に書かれている複数の情報の中から、**関係付けるすべ**を用いて、初発の自分の考えを補完するという目的で、初発の自分の考えと自分に必要だと判断した情報とをつなぎ、自分に必要な情報を取捨選択して取り出す。取り出した情報は、ワークシートに書き写させておく。

自分にとって必要な情報を取捨選択した子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 4

自分の考えがどのように変容したのかを問う。

取捨選択した自分に必要な情報を取り入れて考えをまとめさせるための働き掛けである。学習課題「みんなの周りでこれだけのたくさんの絵文字が使われているのは、なぜだろう」を再度提示し、話題に対する自分の考えがどのように変容したのかを問う。複数の情報の中から取捨選択し、自分に必要な情報を判断して取り出した子どもは、その情報を引用して、話題に対する自分の考えをまとめる。この姿が、**自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れる子ども**の姿である。

その後、自分の考えが変容した理由を考えさせる。子どもは、自分の考えをまとめるためという読む目的意識をもち、文章内容の大体をつかむ素読と、自分に必要ではないかと思いついた部分を摘読することで、自分に必要な情報が読み取れ、自分の考えの形成に役立っていることが分かり、この読み方に有用感を抱く。

有用感を抱いた子どもは、他の教材文や他教科で扱う文章においても、自分の考えを

まとめる学習課題の際には、このような読み方を活用していく。

6 本時の構想

(1) ねらい

比較するすべと関係付けるすべを用いて、自分に必要な情報を取捨選択して読み、話題に対する自分の考えをまとめることができる。

(2) 主張（展開）10～12Q／21Q（45分）

このように子どもに（C0）

- ぐらしの中で、絵文字を見ている。（既済の経験や知識）
 - ・非常口の記号 ・トイレの記号 ・信号の記号 ・天気予報の記号
- 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、文章の内容の大体をつかむ読み方を学習している。
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く学習をしている。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- **話題に対する初発の考えをもたせた上で、教材文の題名「ぐらしと絵文字」を提示する。**
 - ・説明「これから、みなさんにいくつかの絵を見せます」
- 発問「この絵が何を表しているか考えてみましょう」
 - ※複数の絵文字を順に提示し、絵文字クイズを行う。
 - ※一つの絵文字ごとに表していることを答えさせ、答えを板書していく。
- 発問「これらに共通していることは、何でしょうか」
 - ※出された共通点を板書する。
- ・説明「今みんなが考えたように、これらは、絵で意味を表しているマークです。これを、絵文字といいます」
- 発問「みんなの周りでも、このような絵文字を見たことがありますか」
 - ・説明「なるほど。みんなの周りにも、たくさんの絵文字が使われているようですね」
- 発問「なぜ、こんなに多くの絵文字がぐらしの中で使われているのでしょうか」
 - ・指示「多くの絵文字が使われている理由を考えて、ワークシートに書きましょう」
 - ※ワークシートを配り、初発の自分の考えを書かせる。
 - ※大体の子どもが初発の考えを書けた状態で、考えを発表させ、板書する。
 - ・説明「みんな、それぞれに考えた理由があるようですね。先生も、絵文字のことを少し調べてみようと思い、絵文字についての文章がないか探してみました。そうしたら、こんな文章を見つけました」
 - ・提示 教材文の題名「ぐらしと絵文字」を提示する。
- 発問「この文章を、みんなは読んでみたいですか」
 - ※子どもから「読んでみたい」という声が上がったり、挙手している姿があった際に、「なぜ読んでみたいのか」と問い返し、読んでみたい理由を具体的にワークシートに書かせる。
 - ※このワークシートの記述内容から、話題について「絵文字が多く使われている理由をもっと知りたいから」等の学習課題に正対した内容の記述があれば、読む目的をもったと判断し、問いをもった状態とみなす。
 - ・提示「この学習でのめあてはこれです」
 - ※単元における言語活動「なぜなぜ？絵文字～絵文字のひみつを考えよう～」を提示する。

このようになり（C1）

- 絵文字に関する既済の知識や経験を想起し、絵文字クイズに答える。
 - ・知っているよ。トイレのマークだ。
 - ・信号機のところにあるマークだよ。進めと止まれの意味があるよ。
 - ・ホテルで見たことがあるよ。ここから避難してくださいという意味だよ。
- 絵文字クイズで提示された絵を見比べ、共通点を考えて発表する。
 - ・どれも、絵で何かを伝えようとしている。
 - ・付け足しで、絵だけで伝えようとしている。
 - ・絵は違うけれど、何かを伝えるマークというところは、同じだよ。

- 自分の生活の中で見たことのある絵文字を考え、発表する。
 - ・服にアイロンのマークが付いていたよ。
 - ・駅で、車椅子のマークを見たことがあるよ。
- 絵文字がくらしの中で多く使われている理由を、自分の経験や知識を根拠にしなが
ら発表する。
 - ・これだけ多くの絵文字が使われているのは、きっと絵文字が分かりやすいマーク
だからだよ。
 - ・絵文字は、いちいち文字を読まなくても分かって便利だから、たくさん使われて
いるんだと思うな。
- 提示された題名の文章について「絵文字が多く使われている理由をもっと知るた
めに読みたい」という問いをもつ。
 - ・わたしの知らない絵文字が多く使われている理由が書いてあるんじゃないかな。
読んで、絵文字の便利さについてもっと知りたいな。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- **教材文全文を提示し、段落の内容をまとめさせる。**
 - ・説明「みんな、『くらしと絵文字』という文章を、絵文字が多く使われてい
る理由をもっと知りたくて読んでみたいんだね」
 - ・指示「では、これから『くらしと絵文字』を読んでみましょう」
 - ※教材文全文を拡大したものを掲示し、教材文全文を印刷したものを配る。
 - ※一斉音読後、形式段落の番号付け、読めない漢字のルビ振り、意味が分か
らない言葉の印付けを行わせる。
 - ※形式段落数は、全体で確認する。意味の分からない言葉は、国語辞典で調
べさせる。
 - ・指示「『くらしと絵文字』を読んでみましたね。それぞれの段落の内容を、
これから配るワークシートにまとめましょう」
 - ※枠が書かれたワークシートを配り、形式段落ごとに文章内容をまとめさせ
る。
- 指示「読みたいランキングの星をぬりましょう」
 - ※ワークシートの形式段落ごとの欄に、3つの星を記しておく。
 - ※初発の自分の考えに沿った部分で3つの星すべてをぬっている状態で、自
分に必要な情報がどの部分にありそうかの見当をつけていると判断する。

このようになり (C2)

- 「どのようなことが書かれているか」という意識で、教材文全文を読む。
- 形式段落ごとに、内容をワークシートにまとめる。
 - ・一段落は、「伝えたいことを絵と形にしてみただけで分かるようにした記号が絵
文字」ということです。
 - ・十四段落は、「くらしをべんりで楽しく、安全にしてくれること、世界中の人々
がわかり合い、つながりを深め合うのにも役立つ」ということです。
- 自分に必要な情報がどの部分にありそうかの見当をつけ、ワークシートにある読
みたいランキングの星をぬる。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け3】

- どの段落を詳しく読みたいかを問う。
 - ・説明「前の時間は、『くらしと絵文字』の文章を読んで、内容の大体が分か
りましたね」
- 発問「あなたが知りたいと思っていたことは、どの部分を詳しく読むと分か
りそうですか」
 - ・指示「それぞれに、もう少し詳しく読みたい部分があるようですね。では、
これから、あなたの選んだ部分を詳しく読んでみましょう」
- **見当をつけた部分から得られる情報が何かを問う。**
 - 発問「あなたの選んだ部分を読んで、どんなことが分かりましたか」
 - ・指示「分かったことを、ワークシートに書きましょう」
 - ※ワークシートを配り、選択した部分から得られた情報を書かせる。
 - 指示「同じ部分を選んだ人と、どんなことが分かったのか、分かったことを
教え合いましょう」
 - ※席を離れ、同じ段落を選択した子ども同士で集め、分かったことの内容を

交流させる。

このようになり (C3)

- これから詳しく読みたい部分を意識する。
 - ・ 誰にでも分かりやすいことが多く使われている理由だと考えているので、9段落をもう少し詳しく読んでみよう。
 - ・ 分かりやすいこと以外にも多く使われている理由があるのではないかと考えていたので、12段落を読んでみようかな。
- 関係付けるすべを用いて、自分の初発の考えを補完するという目的で、初発の自分の考えと、自分に必要だと判断した情報とをつなぎ、自分に必要な情報を取捨選択して取り出す。
 - ・ 絵文字が多く使われている理由が誰にでも分かりやすいことと考えると9段落を読むと、「外国の人々やおさない子供たちにもすぐ分かります」ということが分かった。
 - ・ 絵文字が多く使われている理由が他にもあるのではないかと考えると12段落を読むと、「絵文字で安全や注意を呼びかけるようになってきています」ということが分かった。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- **自分の考えがどのように変容したのかを問う。**
 - ・ 説明「もう少し詳しく読みたいと考えた部分から、分かったことがあるようですね」
 - ・ 説明「学習課題は、なぜ、こんなに多くの絵文字がくらしの中で使われているのかでしたか」
 - 発問「この学習課題に対して、あなたの考えはどのように変わりましたか」
 - ・ 指示「あなたの考えがどのように変わったのか、ワークシートに書きましよう」
- ※ワークシートを配り、学習課題に対する自分の考えをまとめさせる。

このようになる (Cn)

- 自分に必要だと判断した情報を引用して、学習課題に対する自分の考えをワークシートにまとめる。
 - ・ ぼくは、はじめ、誰にでも分かりやすいから、絵文字がこんなに多く使われていると考えていました。9段落に「外国の人々やおさない子供たちにもすぐ分かります」と書いてあって、本当にいろいろな人に分かりやすい記号だから多く使われていると考えました。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 働き掛け3により、関係付けるすべを用いて、対象である教材文『くらしと絵文字』を摘読して、初発の自分の考えを補完するために、初発の自分の考えと見当をつけた部分に書かれている情報とを関係付けてつなぎ、自分にとって必要な情報を取捨選択して取り出すことができたか。
- ② 働き掛け4により、「たくさんの絵文字が使われているのはなぜだろう」という話題に対し、自分にとって必要だと取捨選択した情報を取り入れて、自分の考えをまとめることができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、教材文『くらしと絵文字』に書かれている複数の情報の中から、自分に必要な情報を取り出しているかを、ワークシートの記述()から検証する。
- ② 働き掛け4を受けて、初発の考え()に、取捨選択して得た自分に必要な情報()を取り入れ、話題に対する自分の考え()をまとめているかをワークシートの記述から検証する。

※上記の①②のどちらもが、すべてワークシートの記述から見とれば、表れありと判断する。